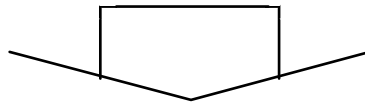


コミュニケーション教育推進会議の検討の進め方
(イメージ)

(22年度)

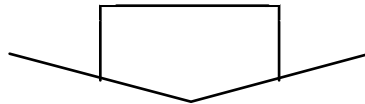
7月～8月

「教育WG」及び「連携・普及WG」を随時開催し、各WGの検討事項について、課題と改善方策等を整理する。



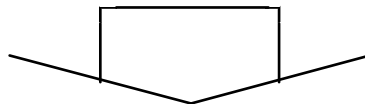
9月～11月

各WGの検討事項が、ある程度整理された段階で、随時、推進会議に報告する。両WGに共通する課題等については、合同会議を開催して、検討・整理を行う。
(両WGの検討を踏まえ、11月中に中間まとめを公表)



12月～3月

引き続き、両WGで検討事項について検討を深めるとともに、随時、推進会議に報告する。



(23年度)

4月～6月

推進会議として提言事項をまとめ、公表。その際、来年度から実施可能なこと、3年を目途に実施すべきこと、10年後の理想像などを盛り込む。

各WGにおける検討の進め方(案)

検 討 事 項	具 体 的 な 進 め 方	タイムスパン
教育ワーキンググループ		
各教科等におけるコミュニケーション教育の位置付け	まず、コミュニケーション教育の趣旨・意義の明確化に向けて検討する。これを踏まえ、各教科等における教育課程上の位置付けや学習指導要領との関係について整理する。	<ul style="list-style-type: none"> ・夏までに基本的な考え方を整理。 ・その後も引き続き検討。
新学習指導要領における言語活動の充実等とコミュニケーション教育の関係		
演劇・ダンス等の芸術表現を用いたコミュニケーション教育推進のための学習プログラムの開発	<ul style="list-style-type: none"> ・ の検討を踏まえ、「児童生徒のコミュニケーション能力の育成に資する芸術表現体験」の具体的な進展状況を分析・検証しつつ、好事例を収集。 ・ 学習プログラム(学校教育目標や年間計画への位置付け、各教科等の指導事項との関係を踏まえた具体例・指導案)のモデルを示す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ WGとして子どもたちの学力・行動面での効果等について検証アンケートを実施。292校の中から好事例の取組を整理。 ・ 来年度の募集に間に合うよう、11月中に学習プログラムモデル案を提示。() ・ その後も引き続き検討を進める。
教員の資質向上方策	の検討を踏まえ、教育委員会、大学、芸術団体等の役割分担を明らかにしつつ研修プログラムの方策の検討を行う。	年度内に具体的方策を整理する。
連携・普及ワーキンググループ		
NPO法人・公共や民間の劇場 等と学校・教育委員会の連携・協力の推進方策	「児童生徒のコミュニケーション能力の育成に資する芸術表現体験」のスキームや局面(募集・申請方法や経費支出の範囲、実施分野、コーディネーターを活用した事業展開の方法など)ごとの課題を整理し、具体的な改善方策を検討する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 来年度の募集に間に合うように11月中に中間に改善方策を検討。() ・ その後も引き続き検討を進める。
指導者養成・研修方策	の検討も踏まえながら、研修プログラムの方策の検討を行う。	年度内に具体的方策を検討する。
コミュニケーション教育の学校への具体的な普及・展開の在り方	「児童生徒のコミュニケーション能力の育成に資する芸術表現体験」実施校の成果をまとめ、周知するための効果的な方法を検討する。また、未経験校の実施を支援するため、教育WGにおいて収集した優良事例や学習プログラムを紹介する方策の検討を行う。	年度内に具体的方策を検討する。
コミュニケーション教育に対する学校や保護者等への理解の促進方策		